

会計-款-項-目-事業名称	最終予算現額	決算額	ページ	備考
社会教育課				
9.教育費				
4.社会教育費				
1.社会教育総務費				
ことうら10秒の愛～やさしさの貯金～	720	682	15-1	
家庭教育支援推進事業	152	132	15-2	
次世代ことうらっ子育て推進事業	1,156	1,104	15-3	
社会教育振興	7,510	7,378	15-4	
寿大学	55	48	15-5	
青少年育成啓発事業	594	574	15-6	
男女共同参画推進事業	377	345	15-7	
文化活動事業	100	73	15-8	
無盡庵管理	211	167	15-9	
2.公民館費				
安田地区公民館活動事業	457	457	15-10	
安田地区公民館管理事業	460	457		事務費
以西地区公民館活動事業	456	439	15-11	
以西地区公民館管理事業	456	429		事務費
一般管理	36,521	36,310	15-12	
浦安地区公民館活動事業	598	598	15-13	
浦安地区公民館管理事業	549	549		事務費
下郷地区公民館活動事業	463	451	15-14	
下郷地区公民館管理事業	645	635		事務費
古布庄地区公民館活動事業	477	456	15-15	
古布庄地区公民館管理事業	517	511		事務費
上郷地区公民館活動事業	311	310	15-16	
上郷地区公民館管理事業	418	417		事務費
成美地区公民館活動事業	452	442	15-17	
成美地区公民館管理事業	810	807		事務費
赤碕地区公民館活動事業	501	501	15-18	
赤碕地区公民館管理事業	471	471		事務費
八橋地区公民館活動事業	670	670	15-19	
八橋地区公民館管理事業	585	584		事務費
3.文化財保護費				
赤崎台場跡保存・活用推進事業	26	26	15-20	
大高野遺跡保存・活用推進事業	5,641	4,837	15-21	
町誌編さん事業	327	231	15-22	
町内文化財保護事業	4,436	4,230	15-23	
文化財活用啓発事業(文化財センター)	590	535	15-24	
民俗資料館管理	717	287	15-25	
4.埋蔵文化財発掘調査費				
町道別所東線道路改良工事に伴う発掘調査事業	592	193	15-26	
町内遺跡発掘調査事業	1,249	1,140	15-27	
5.生涯学習センター運営費				
生涯学習センター20周年記念事業	935	934	15-28	
生涯学習センター管理費	30,037	29,992	15-29	
6.図書館費				
図書館活動費	35,676	35,145	15-30	
7.カウベルホール運営費				
カウベルホール運営	15,234	14,908	15-31	
文化芸術振興事業	692	613	15-32	
5.保健体育費				
1.保健体育総務費				
ことうら健康寿命延伸活動(社会教育課)	35,487	35,389	15-33	
一般管理	11,378	10,744		事務費
2.体育振興費				
スポーツ少年団育成強化	977	955	15-34	
郡・県・全国体育大会選手派遣	4,366	4,178	15-35	
健康寿命延伸事業(地方創生)	5,497	5,260	15-36	
社会体育指導及び推進	1,762	1,619	15-37	
町体育協会育成及び各部奨励	2,405	1,956	15-38	
3.体育施設費				
勤労者体育センター管理運営	835	740		事務費
社会体育利用施設管理	2,740	2,624	15-39	
赤碕総合運動公園管理	14,538	14,223	15-40	
東伯総合公園管理事業	20,742	20,136		事務費
東伯総合体育館耐震対策事業	200,834	196,328	15-41	
農業者トレーニングセンター運営	6,183	6,074		事務費
平岩記念会館管理運営	511	496		事務費
10.災害復旧費				
2.地震災害復旧費				
2.鳥取県中部地震対策費				
鳥取中部地震災害対策事業(地震災害復旧費・社会教育課)	2,758	2,641	15-42	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1202	事業名	ことうら10秒の愛～やさしさの貯金～				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	720	682	0	0	500	0	182	平岩教育・福祉振興基金繰入金		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 78千円、消耗品費 7千円、印刷製本費 597千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
研修への講師派遣回数	回	目標	-	-	10	10	10			
		実績	-	-	1					
		達成率			10%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	保護者、地域の大人、小中学生 等									
事業目的	子どもたちの心の成長のため、日常の10秒ほどのささやかな時間でも子どもと向き合うことを推進し、大人の子どものための意識の向上を目指します。									
事業の主な実施状況	① 子どもとのふれあいや周囲との関わりにおけるヒントとして、ことうら10秒の愛日めくりカレンダーを作成し、保育園・小学校・中学校保護者へ配布しました。									
	ことうら10秒の愛日めくりカレンダー 									
事業の主な実施状況	② 親同士や職場内の人間関係のつながりを深めるきっかけづくりとして町内研修会へ講師を派遣しました。 日時:平成29年10月3日(火) 派遣先:畜産試験場 参加人数:33人									
成果と課題	【前年度課題の概要】									
	① 10秒の愛を日々意識してもらうよう、啓発活動の工夫が必要です。 ② 今後は、家庭だけでなく、地域や職場においても取り組みを拡大することが必要です。									
成果と課題	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 日めくりカレンダーを作成し、日々10秒の愛について意識していただく時間が増えつつあります。 ② 保育園保護者の研修、企業への職場研修へ講師派遣依頼があるなど、取り組みが広がっています。									
成果と課題	【次年度に向けての課題】									
	① 実行委員の中で講師派遣可能な方が現在1名であり、派遣可能人数を増やす取り組みと地域への取り組みを拡大することが必要です。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	7	5	1	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	26	総合評価	B	認知度は上昇しており、町内外へ取り組みが広がっています。社会教育振興の施策の1つとして継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	586	事業名	家庭教育支援推進事業					会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続			
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費		
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)			
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源				
平成29年度	152	132	0	88	0	0	44				
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0				
経費の内訳	報奨金 112千円、その他 20千円										
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)				
アンケート満足度で 「大変良かった」の 割合	%	目標		90	90	90	90				
		実績	75	85	81						
		達成率		94%	90%						
事業対象	乳幼児期～思春期の子どもをもつ保護者										
事業目的	家庭教育に関する学習機会を提供することで、乳幼児期から思春期までの子どもの発達段階における保護者の悩みの解決や自身の子育てについて振り返る機会を設定します。それにより家庭教育支援を行います。										
事業の 主な 実施状況	① 子育て支援講座 子育て支援センターとの共催により6回実施しました。(累計146名参加) 講座内容:リトミック、ベビーマッサージ、木のおもちゃの遊び方、 チャイルドスペース体験										
	② 家庭教育講座 各小中学校との連携により3回実施しました。(累計132名参加) 講座内容:性に関する子育ての悩み、自尊感情を育てる。										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 参加者がより参加したくなる内容を設定し、参加者を増やす工夫が必要です(子育て支援講座) ② 発達課題は様々ありますが、講座内容に統一感を持たせることが必要です。(家庭教育講座)										
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 開催内容について支援センターの意見を積極的に取り入れた結果、参加者が24名増えました。 ② テーマを設定し(男女共同参画の視点)、講座に取り入れてもらいたい視点を明瞭にしました。										
	【次年度に向けての課題】 ① 国・県が注力している内容(家庭教育支援チームの結成等)や他の市町村の動向を調査し、より効果的な取り組みを取り入れていく必要があります。										
	所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
									妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
評価点		7	7	3	1	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
合計点	22	総合 評価	B	核家族化の進行により、家庭教育について学ぶ機会が減少しているため継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	309	事業名	次世代ことうらっ子育み推進事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	1,156	1,104	0	852	0	0	252			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報奨金 494千円、消耗品費35千円、委託料575千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
子どもパーク1教室の 申込者数／定員	%	目標	—	105	110	110	110			
		実績	132	105	93					
		達成率		100%	85%					
事業対象	① ことうら子どもパーク…町内の小学生 ② 放課後子供教室…赤碕、船上小学校区の小学生									
事業目的	① ことうら子どもパーク…体験教室を通じた世代間交流の中で、子どもの心身・想像力・生きる力の育成、ふるさとを愛する心の涵養を図ります。また、ものづくりの知恵やおもしろさ、奥深さに接することで、その技術や科学を学ぼうとする意欲や関心を育むことを目指し実施します。 ② 放課後子供教室…少子化や核家族化の進行、保護者の就労形態の多様化など、子どもを取り巻く環境の変化が問題となる中、放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進します。									
事業の 主な 実施状況	① ことうら子どもパーク 574,610円 ことうら子どもパーク運営委員会へ委託し、ものづくり教室(七宝焼き、サバイバル体験等)などの体験教室を年間20回開催しました。 参加児童数:年間延べ432人(H28:420人) ② 放課後子ども教室 講師謝金493,920円、消耗品34,991円 毎週水曜日の放課後・週末に地域住民の参画を得て学習・体験活動を実施しました。 参加児童数:年間延べ2,166人									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① コーディネーターや講師などの人材の発掘を進め、教室の継続性を維持する必要があります。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① ことうら子どもパークではものづくり等を通じた交流の中で、子どもの想像力、生きる力の育成、ふるさとを愛する心の涵養を図ることができました。 ② 放課後子ども教室の年間参加者が270人増えました。 【次年度に向けての課題】 ① 申込者数が昨年度より減少しており、子どもパークの活動をよりPRすることが必要です。 ② アンケート等により満足度の把握をより進め、魅力的な教室展開を図ることが必要です。 (放課後子ども教室)									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	評価点	7	7	3	1	3	3			
	合計点	24	総合 評価	B	定員を超える教室が増えつつあり、地域振興及び社会教育振興の施策の1つとしての継続が必要です。					
					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止					

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	292	事業名	社会教育振興				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	7,510	7,378	0	0	0	0	7,378			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	賃金 1,994千円、報償費 16千円、旅費 51千円、需用費 494千円、役務費 178千円、委託料 3,516千円、負担金、補助及び交付金 1,115千円、公課費 14千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定なし	%	目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民全般									
事業目的	「学びあい・高めあい『幸せ』感じるまちづくり」を推進します。(社会教育における地方公共団体の任務[学び・教えあいの奨励による住民自ら課題解決に向けて高め合う機運の醸成]と生涯学習の理念[豊かな人生]のイメージの具現化を目指します。)									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育委員会開催 学校教育・家庭教育・一般学識経験者等で構成された社会教育委員会を設置・開催し、教育施策課題について検討、教育委員会に対して提言しました。 開催日 2月26日(月) 内 容 アクティブ活動支援センター活動について 出席者 8名									
	② 各種研修参加 鳥取県等が主催する各種大会・研修への関係者派遣を行いました。 中国・四国社会教育研究大会(10月26・27日) 参加者18名 社会教育主事講習 受講者3名									
	③ 補助金交付 鳥人間コンテストに挑戦中の琴浦町青年団を始とした社会教育関係団体に補助金を交付し、地域住民主役の地域学習活動推進を奨励・援助しました。 町青年団等6団体 合計836千円									
	④ 浦安自由通路点検 浦安駅自由通路について、JR橋梁点検及び町単独部分の点検を行いました。委託料 3,436千円									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 活動者全体の平均年齢が高くなっており、世代交代・新規活動開拓が必要です。 ② 「学習と実践の循環の確立」推進をより図る必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 社会教育関係団体に対して世代交代を奨励しました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 学習と実践の循環確立に向けて検討を進めて行くことが必要です。 ② 社会教育関係補助金について、今後のあり方を検討することが必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
	評価点	7	7	3	3	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
合計点	24	総合評価	B	社会教育活動振興の基礎をなす取り組みであり、継続が必要です。				先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止										

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	300	事業名	寿大学				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	55	48	0	0	0	0	48			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 22千円、消耗品費 14千円、記念品 12千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
専門コース総登録者数	人	目標		130	135	130	130			
		実績	122	128	106					
		達成率		98%	79%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	60歳以上の琴浦町民									
事業目的	各種講座の実施により、高齢者が自らの意識をもって生きがいを見出すことを支援します。また、趣味活動を通じた仲間づくり・生きがいづくりを図ります。									
事業の主な実施状況	① 一般教養コース 教育委員会及び運営委員の主催により10回実施しました（累計418名参加） 実施内容：開講式、レクリエーション、映画鑑賞、町内外研修、講演会、体操、閉講式 ② 専門コース 各コースの自主運営により、月1～4回のペースで実施しました（総登録者106名） 開講コース：歴史（25）茶道（17）園芸（25）表具（7）音楽（8）IT（24） ※（ ）内は人数									
成果と課題	【前年度課題の概要】 ① 一般教養コースは、行政主体になる傾向があります。専門コースの活動を促す等自主活動促進の工夫が必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 一般教養コースでは講演会、研修等で学習機会を提供しました。また、高齢者の交流の場所としても機能しました。 ② 運営方針について運営委員会の意見を積極的に取り入れました。 ③ 専門コースでは各コースが主体性を持って活動できました。歴史コースを一般公開とし、学級生以外にも学習機会を提供できました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 専門コース登録者数が減少しています。一般教養コースにてPRするなど登録数増に向けての取り組みが必要です。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	3	3	1	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	20	総合評価	B	対象者への認知度も定着しており、リピーターも一定人数確保しており、継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	303	事業名	青少年育成啓発事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	594	574	0	0	0	0	574			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 513千円、消耗品費 49千円、保険料 12千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
中高生サークルの 設置数	団体	目標	1	1	1	1	1			
		実績	0	0	0					
		達成率	0%	0%	0%					
琴浦大山署管内の 非行検挙・補導者 数の減少	人	目標	—	27	27	30	30			
		実績	30	45	28					
		達成率		167%	104%					
事業対象	地域住民、子ども会、保護者									
事業目的	青少年の自主的な地域活動の促進と、地域における青少年の健全育成を実現するため、 少年育成員の活動推進、子ども会活動支援、ジュニアリーダーの養成を行います。									
事業の 主な 実施状況	① 少年育成員会活動 夜間街頭指導などの青少年健全育成活動を行いました。(夜間街頭指導20回、育成員会3回) ② 子ども会活動支援 ・子ども会リーダー研修会 平成30年3月10日(土)に開催しました。(参加者:子ども58人、育成者25人) ・モデル子ども会 「子どもの手による子ども会」の推進のため、子どもが主体的に行事を計画、活動したい という子ども会(逢東1・2・3区子ども会、八橋1区子ども会、ガーデンヒルズ子ども会)に アドバイザーを派遣するなどの助成を行ないました。									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 多様化する青少年を取り巻く問題に対して、電子メディア被害・犯罪対策等、街頭巡視活動以外の視点での見守り活動展開が必要となっています。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 近年の町内パトロールでは、青少年の深夜徘徊や喫煙等の問題事象は見受けられていません。 ② 青少年の電子メディア被害・犯罪対策について少年育成員会内で研修を行い県内などの被害・犯罪実例を学ぶことができました。 ③ ジュニア・リーダー研修会では次年度の子ども会リーダーと育成者が集い、研修や情報交換を行うことで子ども会活動の充実を図れました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 電子メディアの被害・犯罪について啓発していくことが必要となっています。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
	評価点	10	7	3	1	3	3	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
合計点	27	総合評価	B	青少年の健全育成に資するため継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	27	事業名	男女共同参画推進事業				会計区分	一般会計			
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続			
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費		
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)			
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源				
平成29年度	377	345	0	0	0	0	345				
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0				
経費の内訳	報償費 32千円、需用費 9千円、委託料 174千円、負担金、補助及び交付金 130千円										
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)				
固定的性別的役割 分担意識に反対の 割合	%	目標		55							
		実績		53.9							
		達成率		98%							
	%	目標									
		実績									
		達成率									
事業対象	町民全般、女性団体連絡協議会、男女共同参画推進会議										
事業目的	男女共同参画社会の形成を促進します。										
事業の 主な 実施状況	① 各種啓発事業の実施 町内各団体と連携しつつ、各種メディアを活用して下記各啓発活動を展開しました。 ・TCC作成男女共同参画ミニドラマ再放送(6月25日) ・男女共同参画週間PR(6月23日～29日) ・男女共同参画推進会議補助(通年:130千円) ・啓発講演会(8月10日) 演題 絵本をより楽しむ方法～まずは読んでみよう～ 講師 繁原 美保さん(e・らぼ) 参加者数 50名 ・男女共同参画フォーラム開催支援(9月10日) ・女性団体連絡協議会への男女共同参画啓発委託実施(10月15日) 演題 職業人としての地域への思い―社会と地域をつなぐ窓口に携わって― 講師 青山 恵子さん(広島大学社会産学連携室 理事補佐) 参加者数 123名 ・鳥取県性暴力被害者支援協議会と連携しての講演会開催(11月17日) 演題 関係は他者の尊重から始まる～性暴力被害における「合意」の問題～ 講師 高山 直子さん 参加者数 50名										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 平成28年度男女共同参画町民意識調査結果を受けた啓発活動内容の見直しが必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 啓発講演会(8月10日)開催にあたり、町民意識調査において幼少期からの男女共同参画意識醸成の大切さが指摘されていたのを受け、絵本とジェンダーをテーマにこども園と啓発事業を共催しました。 【次年度に向けての課題】 ① 第3次町男女共同参画プランに基づいた啓発事業を適正に実施することが必要です。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
	評価点	10	10	3	3	5	3	効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
	合計点	34	総合 評価	B	持続可能な地域づくりの鍵の一つであり、今後も継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	311	事業名	文化活動事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	100	73	0	0	0	0	73			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	需要費 36千円、負担金、補助及び交付金 37千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
入場者数	人	目標								
		実績	2,448	3,588	3,316					
		達成率								
出展者数	団体 人	目標	—	—	—					
		実績	40団体・16人	36団体・10人	25団体・10人					
		達成率								
事業対象	町内全域を活動範囲とする文化活動団体、個人									
事業目的	作品を発表する場の提供により文化活動の活性化を図るとともに、高齢化が進む文化活動者の後継者獲得を目指します。									
事業の 主な 実施状況	① 町民作品展の開催 趣旨 文化活動の向上・活性化や担い手確保のため成果発表の場を提供しました。 日時 平成29年11月3日～5日 内容 町民作品展、文化活動体験講座など 備考 まなびタウン開館20周年イベントと共催 ② 体験講座希望文化団体等補助金 趣旨 新規文化活動者確保のため体験講座開催を支援しました。 日時 平成29年11月3日～5日(町民作品展内で開催) 内容 文化活動体験講座実施事業費補助金 37,500円(4団体)									
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 文化祭運営に係る文化協会の協力体制を見直します。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① まなびタウン開館20周年記念イベントと共催だったため、通常の文化祭とは出展スペースや出展数が限られ、出展を控えた方(団体)がありましたが、文化協会会員を20周年記念イベント実行委員に委嘱し、協会から呼びかけをしていただいた結果、出展スペースの空白はありませんでした。									
	【次年度に向けての課題】									
	① 次年度は単独で開催予定のため、町民作品展のほかに町民の興味を引く企画が必要となります。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10.7,3.0 10.7,3.0 5.3,1.0
	評価点	7	3	3	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5.3,1.0 5.3,1.0 5.3,1.0
	合計点	20	総合 評価	B	本町の文化活動を活発にするための事業であり、継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	587	事業名	無盡庵管理				会計区分	一般会計			
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	□新規 ■継続			
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	1	社会教育総務費		
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)			
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源				
平成29年度	211	167	0	0	0	0	167				
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0				
経費の内訳	需用費55千円、役務費57千円、委託料29千円、使用料及び賃借料26千円										
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)				
設定なし	%	目標									
		実績									
		達成率									
事業対象	町内住民、活用希望者										
事業目的	町民の交流の場、観光振興及び町の活性化を目的に桐谷家住宅を管理します。										
事業の 主な 実施状況	① 琴浦町の文化財として桐谷家住宅を保存活用するとともに、町民の交流の場、観光振興及び町の活性化に資するため、適正な維持管理に努めました。										
	年間利用者数 174人										
事業の 主な 実施状況	② 本年度から図書館から司書派遣を受けての音読会が定期的に行われ、利活用が図られました。										
成果と 課題	【前年度課題の概要】										
	① 職員による定期的な施設現況確認の必要性があります。										
成果と 課題	② 分庁及び本庁に加え、鍵の貸し出し場所の検討の必要性があります。										
	【成果及び前年度課題に対する対応】										
成果と 課題	① 職員による定期的な施設現況確認を継続して行いました。										
	② 利便性を高めるため、近隣家庭に鍵の貸し出しを依頼し、平成30年度から実施予定としました。										
成果と 課題	【次年度に向けての課題】										
	① 平成29年度に図書館音読会の定期利用を開始しました。今後も、ニーズを取り込みながら、施設の活用を図る必要があります。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
	評価点	3	3	1	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
所管課の 評価	合計点	14	総合 評価	B	活用方法が未確定のため、維持管理を継続して行う 必要があります。				公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
									有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
所管課の 評価	合計点	14	総合 評価	B	活用方法が未確定のため、維持管理を継続して行う 必要があります。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
									先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止											

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	684	事業名	安田地区公民館活動事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	457	457	0	0	0	0	457		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 354千円、需用費 53千円、使用料及び賃借料 50千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
自主運営サークル 数 (新規)	団体	目標	3	5	3	3	3		
		実績	2	8	5				
		達成率	67%	160%	167%				
事業対象	町民全般 (自治会、地域団体・個人等)								
事業目的	安田地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき安田地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【安田地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 29回、参加者数 のべ2,582人								
	  10月29日 ハロウィンパーティ@おばけの館								

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	686	事業名	以西地区公民館活動事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	456	439	0	0	0	0	439			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 347千円、需用費 51千円、使用料及び賃借料 41千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%					
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	以西地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき以西地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【以西地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 32回、参加者数 のべ1,900人									
										
			8月5日 いさい夢まつり			8月2日 ふなのえこども園川遊び&ピザ作り交流会				
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 以西子ども会と連携した活動を継続していくために、新しい世話人の発掘の必要性があります。									
	② ふなのえキッズの内容の充実と参加者の増加が課題です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
① 運動会、公民館の集い、いさい夢まつりなどの開催において、新しい世話人さんを含めた会員に出店協力をお願いし地域との連携を図ることができました。										
② ふなのえキッズや男女共同参画講演会など、成美・安田・以西の3公民館の連携で行うことで内容の充実が図れました。										
【次年度に向けての課題】										
① 公民館活動に参加する年代や性別に偏りがあるため、誰でも参加しやすい取組の展開が必要です。										
② 以西地区集落支援員、今年度立ち上がる予定の以西地区振興協議会など、新しい団体との協力体制の構築を進める必要があります。										
③ 高齢化に伴い、住民自らが積極的に課題解決を行うことが困難になってきています。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
	評価点	7	7	3	3	3	1	先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
	合計点	24	総合 評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	320	事業名	一般管理		会計区分	一般会計				
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	36,521	36,310	741	0	0	0	35,569			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報酬 2,160千円、賃金 21,255千円、需要費 6,201千円、役務費 1,711千円、委託料 4,340千円 使用料及び賃借料 462千円、備品購入費 36千円、負担金、補助及び交付金 145千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%	0%	0%			
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	各地区内部と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき町内9地区に公民館を設置、館長・主事を配置し、各種業展開を通じて目的達成に努めました。 【公民館利用状況】 利用者数のべ47,537人									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 少子高齢化・核家族化による人間関係の希薄化・地域力の低下、人口減少などに対応するため、より工夫を行い、住民の教養・生活文化振興に資する必要があります。 ② 地方創生取り組みに伴う「地域の拠点」づくりの推進が必要です。 ③ 生涯学習における「学習と実践の循環」をより確立するための取組推進が必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 各地区の地域課題等に即した事業展開を行い課題解決の推進を図りました。 ② 公民館教室自主運営化の推進を図りました。 【次年度に向けての課題】 ① 地域課題等を適正に把握しつつ、生涯学習における「学習と実践の循環」をより確立するための取組推進が必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	7	3	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
合計点	24	総合評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	688	事業名	浦安地区公民館活動事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	598	598	0	0	0	0	598		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 469千円、需用費 98千円、使用料及び賃借料 31千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3		
		実績	2	8	5				
		達成率	67%	160%	167%				
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)								
事業目的	浦安地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき浦安地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。								
	【浦安地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 80回、参加者数 のべ2,923人								
									
	2月16日 「にこにこ体操教室」脳トレタイム				8月19日 うらやすキッズ 「あわあわバスボムとぷるぷるゼリーづくり」				
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 少子高齢化が深刻な状況にあり、地域における独居高齢者の孤立などへの対策が必要です。								
	② 若年層の公民館利用率が低迷しており、幅広い年齢層の利用促進について検討が必要です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 高齢者対象の「にこにこ体操教室」を開催し、健康づくりと交流の場を提供することで、独居高齢者の様子を定期的に伺うこともできるなど、相互に気遣い合える関係づくりの推進につながりました。								
	② 地域こども教室「うらやすキッズ」では、親子で楽しめる活動を企画し、親同士や子ども同士の交流を深めつつ公民館とも情報交換するなど、若年層の公民館利用促進につながりました。								
	【次年度に向けての課題】								
	① 公民館活動への参加者数が前年度と比較して微増となつてはいるものの、地区の人口に対する住民参加率が圧倒的に低いため、まずは公民館活動へ関心を持ってもらい、地域振興への意欲向上につながる企画運営を検討する必要があります。								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	7	3	3	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
							効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
								先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0
	合計点	24	総合 評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

A:事業拡充 B:現状維持
C:内容の見直し又は委託の検討
D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	689	事業名	下郷地区公民館活動事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	463	451	0	0	0	0	451			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 354千円、需用費 81千円、使用料及び賃借料 16千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数 (新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%					
事業対象	町民全般 (自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	下郷地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき下郷地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【下郷地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 70回、参加者数のべ 2,597人									
	 6月3日 「故郷めぐり」三徳山 三佛寺				 6月30日 「まちの保健室」足うらマッサージ教室					
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 各種行事の参加者数のさらなる増加を図るための対策が必要です。 ② 公民館教室からサークル活動への移行をより促進することが重要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 公民館運営協議会、教養体育部長会などを通じて住民ニーズ把握と反映に努めました。特に故郷めぐり、視察研修は、企画、運営を一緒に実施することができました。 ② まちの保健室では、子育て健康課とコーディネーターさんと事前・事後協議を行い、健康づくり活動への意識啓発を行うことができました。また、部落役員さんにも関わってもらえるよう働きかけ、まちの保健室の周知が図れました。 ③ 公民館活動からサークル活動への移行に努めましたが、講師確保が課題となっています。 【次年度に向けての課題】 ① まちの保健室では、モデル事業終了後も継続できるよう、地域住民が主体的・組織的に健康づくり活動を行える魅力ある取り組みが必要です。 ② 講師確保及び講師づくりに力をいれ、自主運営グループづくりを推進することが必要です。									
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
所管課の 評価	評価点	7	7	3	3	3	1	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	24	総合評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	691	事業名	古布庄地区公民館活動事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	477	456	0	0	0	0	456		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 332千円、需用費 84千円、使用料及び賃借料 40千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3		
		実績	2	8	5				
		達成率	67%	160%	167%				
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)								
事業目的	古布庄地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき古布庄地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【古布庄地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 71回、参加者数 のべ2,346人  11月12日 琴浦町巨木の郷 二人三脚・三人四脚駅伝大会  12月17日 エンジョイSCHOOL お楽しみクリスマス会								
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 少子高齢化により深刻な公民館活動を支えるリーダー的人材の確保・育成の対策が必要です。 ② 地域特性を生かした公民館活動の検討が必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 地域子ども教室、成人教室の内容を再検討し、公民館活動の参加率の低い年代に公民館を知ってもらい、参加してもらうよう見直しをしました。 ② 巨木の郷二人三脚・三人四脚駅伝を古布庄地区の一大事業と位置づけ、地域をあげて運営を行いました。 【次年度に向けての課題】 ① 古布庄地域振興協議会、集落支援員との事業展開、また連携について考えていく必要があります。 ② 幅広い年代の方が公民館活動に参加しやすい工夫の検討と、地域振興について地区全体がひとつになって考えていくための活動を展開することが必要です。								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
	評価点	7	7	3	3	3	1	有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
合計点	24	総合評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	690	事業名	上郷地区公民館活動事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	311	310	0	0	0	0	310			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 236千円、需用費 52千円、使用料及び賃借料 22千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%					
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	上郷地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき上郷地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【上郷地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 63回、参加者数 のべ2,127人									
										
			7月30日 上郷地区わくわく子ども会 (竹細工教室)			10月31日 上郷地区高齢者教室 さあしぶりにしゃべらあ会				
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 自主運営化(サークル化)の啓発をより強化することが重要です。 ② 高齢者の参加率拡充を図り、地域特性に合わせた事業推進を進めたいと考えます。 ③ 住民に対する公民館事業内容の周知法のさらなる工夫が必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 自主運営化(サークル化)が2団体増加、定期的に活動をおこなっています。 ② 高齢者の参加率増を図るため、高齢者クラブ等に呼びかけ参加しやすい事業内容を計画しました。 ③ 住民に対する公民館事業内容の周知法として、部落内放送やホームページ掲載に努めました。 ④ 地域の子どもと保護者と連携を図り、体験活動を通して学びと繋がりを深めることが出来ました。 【次年度に向けての課題】 ① 積極的に活動を推進する地域リーダーの発掘が課題です。 ② 自主運営学習グループ(サークル)の更なる強化が必要です。 ③ 地域の活性化・住民のニーズに対応出来るよう努めたいです。 ④ 高齢者と子どもの繋がりをさらに深め、学びの機会を増やしていくことが必要です。									
	所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。
		評価点	7	7	3	3	3	1	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
		合計点	24	総合 評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	685	事業名	成美地区公民館活動事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	452	442	0	0	0	0	442		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 332千円、需用費 70千円、使用料及び賃借料 40千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
自主運営サークル 数 (新規)	団体	目標	3	5	3	3	3		
		実績	2	8	5				
		達成率	67%	160%	167%				
事業対象	町民全般 (自治会、地域団体・個人等)								
事業目的	成美地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき成美地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【成美地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 63回、参加者数 のべ3,637人								
		防災講演会 3月4日				男女共同参画講演会 8月10日			
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 公民館行事への参加者の減少がみられます。 ② 地域課題の把握をより進めることが必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 船上小学校・ふなのえこども園と連携をとり、3地区公民館の共催事業として行うことで、講演会では若い世代に参加してもらい、研修してもらうことができました。 ② 地域課題のひとつである防災について区長会と共催で講演会を開催、地域防災について学ぶ事ができました。 【次年度に向けての課題】 ① 地域課題の把握を進めていく必要があります。 ② 自主運営サークルづくりの推進が必要です。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
所管課の 評価	評価点	7	7	3	3	3	1	妥当性 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0
								有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
	合計点	24	総合評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	683	事業名	赤碕地区公民館活動事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課		担当係	生涯学習係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続			
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	501	501	0	0	0	0	501			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 413千円、需用費 54千円、使用料及び賃借料 34千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数(新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%					
事業対象	町民全般(自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	赤碕地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき赤碕地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【赤碕地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 85回、参加者数 のべ5,086人									
	 赤碕音頭の伝承				 海岸清掃					
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ①人の繋がりが希薄になりつつある現状を踏まえ、社会教育を基本においての生涯学習を身近な地域で推進することで、人と人・地域の繋がりを強くしていくことが必要です。 ②公民館主催事業からサークル活動への移行を推進し、自主的な学習活動推進を一層図りたいと考えます。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ①人の繋がりを強化するという意図を運営者間で共有しながら、各事業において実施しました。 ②主催事業のスタッフに対して、自主活動への移行を念頭に置いて事業を実施するよう啓発しました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 人の繋がりが希薄になりつつある現状を踏まえ、人と人・地域のつながりを強くするための事業展開が必要です。 ② 地域課題(秋祭り衰退・環境問題等)解決のための学習機会提供を継続して行うことが必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
	合計点	24	総合評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	687	事業名	八橋地区公民館活動事業					会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	670	670	0	0	0	0	670			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 506千円、需用費 121千円、使用料及び賃借料 43千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
自主運営サークル 数 (新規)	団体	目標	3	5	3	3	3			
		実績	2	8	5					
		達成率	67%	160%	167%					
事業対象	町民全般 (自治会、地域団体・個人等)									
事業目的	八橋地区内各自治会と連携した教育・学習事業の展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高めあうような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興、地域課題の解決等を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 社会教育法並びに琴浦町公民館条例の規定に基づき八橋地区公民館を設置、館長・主事を配置し、各種教育事業展開を通じて、地域住民が自ら実生活に即した文化的教養を高め得るような環境を醸成しつつ、住民の教養の向上、生活文化の振興等を図りました。 【八橋地区公民館開催事業・講座状況】 開催回数 96回、参加者数 のべ7,072人									
										
	健康寿命の延ばし方講座 3月6・20日「からだリセットヨガ教室」					やばせキッズ 親子夕涼み会 9月2日				
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 自主運営学習グループづくりをより強化するのにあたって、講師確保が課題です。 ② より広く学習人材情報収集に努め、生涯学習の大切さを発信しながら、地域住民が生涯現役を目指し色々な事が学べる機会や場所を広く提供することが必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 公民館教室等をきっかけとした地域住民による自発的学習拠点として公民館を提供し、グループ・サークルの自主的運営育成と援助を行いました。その結果、自主学習推進と学習成果発表の機運機運が醸成されてきています。 ② 地域人材を活かした事業を通じて住民の親睦・交流・異年齢の仲間作りや情報交換が進みました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 少子高齢化が進む状況で幅広い年齢層の利用を促進し、若者が参加できる環境づくりが課題です。 ② 公民館があらゆる学びと交流の拠点となるよう継続的にかかわってもらえる魅力ある取り組み展開が必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
評価点		7	7	3	3	3	1	効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
合計点	24	総合 評価	B	地域における社会教育活動振興の中心を担う取り組みであり、地域教育力維持向上のためにも継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1261	事業名	赤崎台場跡保存・活用推進事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	26	26	0	0	0	0	26			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	需用費 26千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
企画展示	回	目標			1					
		実績			1					
		達成率			100%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民、町外住民									
事業目的	史跡鳥取藩台場跡の追加指定に伴い、保存・活用にむけての準備を行います。									
事業の 主な 実施状況	① 活用活動の一環として北栄町・湯梨浜町と3町で企画展を開催、赤崎台場跡のPRを行いました。 名 称 琴浦・北栄・湯梨浜3町連携 企画展 開催期間 平成30年2月16日(金)～3月31日(土) 会 場 北栄町みらい伝承館 主 催 北栄町教育委員会 内 容 幕末に台場の築造や反射炉の建設等に尽力した武信佐五右衛門・潤太郎について展示しました。琴浦町からは連携事業として、赤崎台場跡と武信佐五右衛門・潤太郎をテーマにしたパネルを作成・出品しました。									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 今後、遺跡の整備・活用をスムーズに行なうため保存活用計画を策定し、史跡の適切な保存及び活用の基本方針を決める必要がありますが、鳥取藩台場跡としての史跡指定であるため、浦富、橋津、由良、淀江、境の各台場を所管する市町村及び県と連携し調整をはかる必要があります。 ② 赤崎台場跡の町民への周知ため今後も継続して普及活動を行っていく必要があります。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 北栄町で実施した企画展にて連携事業として赤崎台場跡の展示をすることで町内外に台場を周知することができました。 【次年度に向けての課題】 ① 保存活用計画の策定にあたっては、鳥取藩台場跡を所管する市町村及び県と連携し調整をはかる必要があります。今年度は県及び各市町村との調整ができなかったため、今後、策定期間を定めたいうで改めて連携をはかる必要があります。 ② 赤崎台場跡の町民への周知ため今後も継続して普及活動を行う必要があります。普及活動として講演会や展示活動だけではなく、パンフレットなどの作成・配布による周知も必要であると考えます。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
	評価点	7	10	3	3	3	3	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0
合計点	29	総合 評価	B	赤崎台場跡の適切な保存方法や遺跡の活用方法を検討していくため事業の継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1203	事業名	大高野遺跡保存・活用推進事業				会計区分	一般		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	5,641	4,837	2,126	425	0	0	2,286			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償金 105千円、旅費 382千円、需用費 1千円、印刷製本費 774千円、役務費 76千円、委託料 3,499千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
保存活用計画策定	%	目標	10%	50%	100%					
		実績	10%	50%	100%					
		達成率	100%	100%	100%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民、町外住民									
事業目的	特別史跡斎尾廃寺跡・史跡大高野官衙遺跡の保存・活用計画を策定するため、地元住民、文化財関連有識者の参加した保存・活用検討委員会を開催し、史跡の保存、活用及び整備を円滑にすすめるため策定します。									
事業の主な実施状況	① 国特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡及び隣接する関連遺跡を含め、今後適切な保存活用を図るため、下記の各事業を実施し、保存活用計画の策定を完了し、計画図書を刊行しました。 ・特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡保存活用計画検討委員会 3回 465千円 ・特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡保存活用計画作成支援業務委託 3,499千円 ・特別史跡斎尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡保存活用計画印刷製本業務 774千円									
成果と課題	【前年度課題の概要】 ① 史跡の保存・活用や管理に係る整備等を実施する必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 史跡の保存管理や活用について、策定した計画のなかで整理・方針決定を行いました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 策定した保存活用計画に沿って、史跡及び隣接する遺跡に対し適切な保存活用を図る必要があります。 ② 継続的な活動の周知や地域の方々の参加など、後継者育成に係る活動への支援や活動機会の提供が必要です。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0
	評価点	7	10	3	5	3	3	公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0
合計点	31	総合評価	E	今後は計画に沿った事業実施が必要と考えます。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5.3,1.0
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5.3,1.0	
A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止										

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1262	事業名	町誌編さん事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	327	231	0	0	0	0	231		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 6千円、旅費 47千円、需要費 153千円、使用料及び貸借料 25千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
編さん内容の検討 (検討会の開催)	回	目標	2	3	3				
		実績	2	2	1				
		達成率	100%	67%	33%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業対象	町民、町外住民								
事業目的	地域文化の継承が困難となりつつある状況の中、本町がどのようにして生まれ、歩んできたのかを振り返り、現代または後世に生きる町民自身の郷土に対する関心と愛着をより深めるとともに、地域文化の継承により将来の郷土づくりのため町誌編さんの推進を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 検討委員会の開催 町内有識者3名等で構成された町誌編さん検討委員会を開催しました。 開催日 3月29日(木) 内 容 ・編さんスケジュールの確認 ・編集委員の選定 出席者 町内有識者3名、事務局								
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 編さんスケジュールの再検討が必要です。 ② 編さん方針、項目等を協議の上、執筆者の選定を行う必要があります。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 執筆や編集等の作業期間について県史編さん事業等を参考にした結果、当初、実施期間を3年としていましたが、期間及び現行体制では刊行が極めて困難と判断し、作業期間を5年にする案を提示、承認されました。 ② 検討委員会で作成した目次案の項目ごとに、その分野の第一人者を編集委員に選定し、編さんの基本計画の策定、執筆者の選定等を行う編集委員会を次年度より開催することを提案、承認されました。 【次年度に向けての課題】 ① 町誌編さんにかかる経費や年次計画を作成し、関係各所との検討が必要です。								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。
	評価点	3	7	3	1	1	3	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
	合計点	18	総合 評価	C	町誌は本町の歴史を語る上で代表的なものであり、引き続き検討が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	321	事業名	町内文化財保護事業				会計区分	一般		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	4,436	4,230	0	0	0	0	4,230			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報酬 36千円、賃金 503千円、報償金 124千円、旅費 148千円、需用費 409千円、役務費 58千円、委託料 734千円、使用料及び賃借料 334千円、負担金、補助及び交付金 1,724千円、補償金 160千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
河本家住宅来場者	人	目標			1,600	1,600	1,600			
		実績	1,805	1,600	1,400					
		達成率			88%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	一般町民									
事業目的	町内の文化財を後世に継承するため文化財の保存・保護及び活用、公開を行い、優れた郷土の歴史や文化を理解していただくことで郷土愛の醸成に資します。									
事業の 主な 実施状況	① 町内文化財保存・保護、活用に係る取組みとして以下の事業を実施しました。 ・文化財保護審議会 2回 32千円 ・町内文化財巡視 年21回 97千円 ・町内文化財管理(町有地草刈、管理委託等) 1,237千円 ・文化財標柱修繕 5箇所 241千円									
	② 町内文化財の保存・活用に係る事業に対し、以下の補助金を交付しました。									
	補助金の名称			金額(円)		交付対象				
	文化財建物公開・活用促進事業			426,000円		河本家保存会				
	無形文化財補助金			20,000円		以西おどり保存会				
	無形文化財補助金			20,000円		逢束盆踊り保存会				
	無形文化財補助金			20,000円		三本杉盆踊り保存会				
	重要文化財河本家住宅活用基本構想策定事業			475,000円		河本雅通				
	町指定津田家墓所復旧事業			130,000円		体玄寺				
	町指定倉阪神社復旧事業			498,000円		倉阪神社				
国登録有形文化財塩谷家住宅修理事業			110,000円		塩谷定好フォトプロジェクト					
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 文化財建造物の経年劣化等、修理が必要な文化財に対し、所有者事業費の確保が必要です。									
	② 無形民俗文化財は、保存会の高齢化による後継者育成支援が必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 文化財所有者の修理事業費の確保等は継続する課題ですが、所有者と調整し、平成28年の鳥取県中部地震によるき損文化財など順次修理事業を実施しました。									
	② 保存会の活動事業として、各盆踊りでの活動のほか、小学校運動会、町民運動会の参加、白鳳祭への参加等を通して、活動の周知や地域の方々の参加など、後継者育成に繋がる機会・活動に支援をすることができました。									
	【次年度に向けての課題】									
	① 町内文化財の経年劣化は他にも認められ、文化財巡視の強化や調査など文化財の状況把握を適切に行う必要があります。									
	② 継続的な活動の周知や地域の方々の参加など、後継者育成に係る活動への支援や活動機会の提供が必要です。									
	所管課 の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。
評価点		7	10	3	1	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5.3,1.0 5.3,1.0 5.3,1.0
合計点		27	総合 評価	B	町内文化財の保存活用のために継続して必要と考えます。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	322	事業名	文化財活用啓発事業(文化財センター)				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課		担当係	学芸文化係		事業区分	■新規 □継続			
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	590	535	0	0	0	0	535			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	需要費 180千円、役務費 346千円、負担金、補助及び交付金 9千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
設定無し		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	歴史・民俗資料及び町民									
事業目的	郷土の歴史、民俗等に関する資料を収集し、保管、展示、活用して町民の利用に供し、町民及び地域社会の文化向上を図るとともに、文化財保護の活動拠点として活用します。									
事業の 主な 実施状況	①民俗資料の移動 旧浦安給食センターと旧赤碕給食センターに保管していた民俗資料を旧古布庄小学校に移動しました。									
	(移動前)		(移動後)							
										
										
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 東伯と赤碕に分散して保管していた民俗資料を一箇所で管理するため、移動を行いました。									
	【次年度に向けての課題】									
① 資料の状態把握を行いながら、保管、展示、活用等の基本となるランク付けを伴った調書を作成する必要があります。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5.3,1.0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5.3,1.0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5.3,1.0
	合計点	24	総合評価	B	本町の歴史を伝える資料であり、資料整理を行い、適切な保管・活用に繋げていく必要があります。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	323	事業名	民俗資料館管理				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	3	文化財保護費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	717	287	0	0	0	0	287		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	作業員 96千円、消耗品費 96千円、使用料 95千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
来館者数	人	目標		700	800	700	700		
		実績		700	550				
		達成率		100%	69%				
来館学校数	校	目標	0	0	5	5	5		
		実績	1	5	5				
		達成率			100%				
事業対象	町民、町外住民								
事業目的	昔の庶民の生活や生産活動を民具や農具などの民俗資料から学び、文化財の大切さを知り、それらを後世に伝えます。								
事業の 主な 実施状況	① 小学校の学習に資料館見学や資料貸出、体験学習等の機会を提供し、考古資料および民俗資料を通じて郷土の歴史を伝えました。 ② 資料館内の展示資料の維持管理を行いました。また、県立博物館アドバイザーの派遣を受け、展示替えを行いました。 ③ 小学3年生社会の学習に合わせた体験学習や、総合学習で出前授業を行いました。 年間来館者数 826人								
									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 館内に展示している資料の状態把握を行う必要があります。 ② 県立博物館のアドバイザー派遣事業を活用した保管資料の管理・保存検討が必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 県立博物館から派遣されたアドバイザーの指導のもと、民俗資料館内に展示している資料の状態の把握や展示替えを行いました。また、状態が悪く展示に向かない資料については、展示から下げるなど適切な処置をしました。 【次年度に向けての課題】 ① 引き続き、アドバイザーの指導のもと資料の状態把握と適宜展示替えを行う必要があります。								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。
	評価点	7	3	3	3	3	3	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
	合計点	22	総合 評価	B	本町の歴史や先人の暮らしを伝える上で必要な事業であり、今後も継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1329	事業名	町道別所東線道路改良工事に伴う発掘調査事業				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	4	埋蔵文化財発掘調査費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	592	193	0	0	0	0	193			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	需用費 193千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
別所第4遺跡発掘 調査報告書発刊	%	目標		50	50					
		実績		50	50					
		達成率		100%	100%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民、町外住民、開発行為者									
事業目的	平成28年度町道別所東線道路拡幅工事に伴い、記録保存を目的として実施した全面発掘調査の報告書を作成します。									
事業の 主な 実施状況	① 平成28年度実施町道別所東線道路改良工事に伴う発掘調査の報告書を作成しました。 調査報告書編集期間 平成29年4月3日～平成30年3月20日 調査報告書発刊日 平成30年3月30日 報告書ページ数 46ページ									
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 平成28年度は発掘調査を実施したのみで、発掘調査報告書が未発刊のため調査報告書を発刊する必要があります。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 平成28年度に実施した調査成果を整理し、調査報告書の発刊を行いました。 【次年度に向けての課題】									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	10	3	3	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	29	総合 評価	E	遺跡の記録保存が適切に完了しました。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	324	事業名	町内遺跡発掘調査事業				会計区分	一般		
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	4	埋蔵文化財発掘調査費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	1,249	1,140	562	281	0	0	297	対象事業費の1/2国補助、1/4県補助		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	共済費 3千円、賃金 860千円、需用費 231千円、役務費2千円、使用料及び賃借料 44千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
松ヶ丘第2遺跡 他	ヶ所	目標			1					
		実績			3					
		達成率			300%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民、町外住民、開発行為者									
事業目的	鳥取県の松谷第1地区ため池整備事業に伴い、予定地内の松ヶ丘第2遺跡の試掘を実施し、開発事業と文化財保護との調整を図ります。									
事業の主な実施状況	① 当初の予定では松ヶ丘第2遺跡の試掘調査のみでしたが、追加で松ヶ丘所在遺跡及び槻下所在遺跡の調査を実施しました。 調査原因 ①松ヶ丘第2遺跡 松谷第1地区ため池整備事業 ②松ヶ丘所在遺跡 松谷第1地区ため池整備事業 ③槻下所在遺跡 農業用水路改修工事 調査期間 ①松ヶ丘第2遺跡 平成29年6月26日～8月24日 ②松ヶ丘所在遺跡 平成29年10月18日～10月26日 ③槻下所在遺跡 平成29年11月6日～7日 整理期間 平成29年9月1日～平成30年3月26日 調査報告書発刊日 平成30年3月23日									
成果と課題	【前年度課題の概要】									
	① 遺跡の範囲外であっても、隣接地や過去の調査結果、周辺の地形等から試掘調査が必要となってきます。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 松ヶ丘第2遺跡の調査は松谷第1地区ため池整備事業調査に伴うものです。調査の結果、遺跡を確認したため、開発事業者と協議を行い、工事施行箇所を変更しました。松ヶ丘所在遺跡の調査は当初予定されていませんでしたが、松ヶ丘第2遺跡の結果をうけ、対象地が工事予定となったため調査を実施しました。また、槻下所在遺跡の試掘調査も当初予定をしていませんでしたが対象地で農業用水路改修工事が予定されたため実施しました。両遺跡とも工事施行時期が迫っていたため、トレンチ設置箇所を限定するなどし、調査を行ったうえで開発行為との調整を行いました。									
	【次年度に向けての課題】									
	① 今年度の調査では当初の計画に加え二箇所調査を実施しました。その際に急遽実施することになった調査であったため必要な作業員を確保するが困難でした。そのため、今後、追加の調査を実施する際に必要な人数の作業員を確保するための工夫が必要であると考えます。また、今後、追加調査がでないよう開発事業への聞き取りを密に実施します。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
							妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
							公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
							有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
合計点	31	総合評価	B	文化財保護事業の一環として継続が必要					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1372	事業名	生涯学習センター20周年記念事業				会計区分	一般会計			
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続			
予算区分	款	9	教育費		項	4	社会教育費		目	5	生涯学習センター運営費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)			
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源				
平成29年度	935	934	0	0	0	0	934				
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0				
経費の内訳		委託料 934千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)				
参加者数	人	目標			6,000						
		実績			7,304						
		達成率			122%						
		目標									
		実績									
		達成率									
事業対象	町民全般										
事業目的	平成9年に町内生涯学習の拠点として整備された、琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」の開館20周年を記念して、新たな学習の出会い・深まり・広がり・楽しみの場としてイベントを開催、多数の町民の参加を得ながら、これからの琴浦町生涯学習のさらなる展開のきっかけづくりを行います。										
事業の 主な 実施状況	① 実行委員会の設置及び事業実施委託 社会教育委員、文化協会、男女共同参画推進会議により実行委員会組織を構成、記念事業を町民の自由な発想の基で運営していく機運づくりを行いました。また、実行委員会に対して記念事業を実施委託し、柔軟な発想と執行体制で町民にとってより魅力的で、まなびタウンの多様な学習機能を再認識できる様な記念事業推進を図りました。 ② 記念事業の実施 下記のとおりイベントを開催、多数の参加者を得て盛大に20周年を祝うことができました。 期日 11月3日(金・祝)～5日(日) 各日9:00～17:00等(実施時間はイベントによる。) 会場 まなびタウンとうはく全館 主要イベント 巨大迷路(多目的ホール)、町民作品展(展示ホール等)、古本市(図書館)、 食ってみようよ 琴浦の味(調理実習室)、ものづくりコーナー(創作室) 参加者数 のべ7,304人 実行委員会反省会では「盛況だった」「来場者がとても楽しんでいた」「また5年後もやりたい」「作品展などの展示も多くの方に見てもらえてよかった」という声が聞かれ、複合館である学習センターの機能を再認識できる機会となっています。 										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 生涯学習センター開館20周年の節目を迎え、今後の生涯学習のさらなる展開を図るきっかけづくりが必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 町民の生涯学習成果発表・学習センター機能再認識の両方を満たしたイベントとするため、実行委員会を組織し、多様な視点と自由な発想を活かした事業推進を図りました。 【次年度に向けての課題】 ① 次の節目に向けてより町民主体での生涯学習活動を推進し、自立と自律を育む教育活動の浸透をより図ることが必要です。										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
	評価点	10	3	3	5	3	3				
	合計点	27	総合 評価	B	今後も同様の取組を、より町民主体で行っていき きと考えます。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	325	事業名	生涯学習センター管理費				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	生涯学習係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	5	生涯学習センター運営費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	30,037	29,992	0	0	3,863	0	26,129	使用料3,863千円		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	需用費 15,100千円、役務費 591千円、委託料 13,302千円、使用料及び賃借料 969千円 備品購入費 30千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
館内利用	円・人	目標	3,096,000円	3,120,000円	3,480,000円	3,500,000円	3,500,000円			
		実績	41,136人／	51,186人／	46,119／					
		達成率	3,374,740円	3,635,548円	3,863,158円					
駅南駐車場	円	目標	840,000	674,000	600,000	550,000	600,000			
		実績	820,260	709,560	573,480					
		達成率	98%	105%	96%					
事業対象	町内外センター利用者									
事業目的	町民の生涯にわたる学習活動を支援し、町民文化の充実振興に資します。また、センターの学習機能・集会機能を貸館により提供し、町内外の生涯学習振興を図ります。									
事業の 主な 実施状況	① 生涯学習センター管理運営を行い、町民等の生涯学習振興を図りました。									
	項目		利用件数(件)			利用者数(人)			使用料(円)	
	年度	町内	町外	合計	町内	町外	合計			
	平成28年度	1,094	539	1,633	29,580	18,851	48,431	3,635,548		
	平成29年度	967	511	1,478	27,994	18,125	46,119	3,863,158		
事業の 主な 実施状況	② 空調設備の経年劣化等による故障に応じて修繕を行い利用環境の維持に努めました。									
	【平成29年度空調機修繕】									
	3階用冷温水2次ポンプ取替				853千円					
	吸水式冷温水機アロエース3号機修繕				300千円					
	冷温水機膨張タンク修繕				1,088千円					
										
(冷温水機膨張タンク)										
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① 経年劣化による雨漏り等への対応のため外壁修繕が必要です。									
	② 椅子の汚れ・痛み、館内照明の安定器生産中止への対応など設備品改修が必要です。									
	③ 2階調理室の活用、施設利用料見直し、運営管理委託(指定管理等)の検討が必要と考えます。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
成果と 課題	① 特殊建物定期点検に合わせて建物劣化度調査を行い、公共施設等総合管理計画個別施設計画を作成しました。個別計画に合わせ、外壁等の大規模改修工事を平成30年度当初予算化しました。									
	② 施設老朽化に応じて空調機の一部の修繕を行いました。									
	【次年度に向けての課題】									
	① 個別施設計画に基づいた改修や、設備備品の更新を適正に行うことが必要です。									
	② 施設活用法の再検討、利用料見直し、運営体制などの検討を進めることが必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	10	3	5	3	5	3	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
合計点	29	総合評価	C	町民の生涯学習の場として今後のあり方を考えながら管理運営を行う必要があります。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止		

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	329	事業名	図書館活動費				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	図書館係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	6	図書館費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	35,676	35,145	0	0	22,211	0	12,934	ふるさと基金 20,198千円 図書基金2,000千円、コピー等13千円		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	賃金19,132千円、消耗品費2,626千円、委託費2,117千円、使用料及び賃借料4,909千円、備品購入費5,699千円、その他662千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
来館者率 (来館者数／人口)	%	目標	3.73	4.25	4.12	3.85				
		実績	4.25	4.12	3.85					
		達成率	114%	97%	93%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民全般									
事業目的	町民の知る権利を守るために図書資料の充実を図り、各種情報を提供します。また、本に親しむ機会を提供し、保育園・こども園・小・中学校・公民館などと連携を取り読書活動の推進を図ります。									
事業の主な実施状況	① 年間を通じて図書館利用を図りました。図書購入費 5,699千円 ・ 年間来館者数 68,747人 ・ 年間貸出者数(個人) 29,859人 ・ 年間貸出冊数 117,485冊 ・ 年間購入冊数 3,136冊 ・ 移動図書館車:年間貸出者数 2,698人、年間貸出冊数 8,309冊 ② 子どもの読書推進として下記のとおり実施しました。ブックスタート等事業費 453千円 ・ ブックスタート 6ヶ月児:年6回 107人参加、3歳児:年7回 119人参加 ・ おはなし会 本館:毎週土曜日 380人参加、分館:毎週土曜日 75人参加 ・ 出前おはなし会 年11回 425人参加 ③ 図書館利用促進として下記のとおり実施しました。イベント事業費 122千円 ・ セタまつり 200人参加 ・ クリスマス会 本館:61人参加、分館:29人参加 ・ 映画会 年9回 188人参加 ・ 古文書講座 45人参加  【セタまつり】									
成果と課題	【前年度課題の概要】									
	① イベントや図書展示がマンネリ化にならないように工夫する必要があります。									
	② 書棚が手狭になってきているので、本の循環に力をいれていきます。									
	③ 談話コーナーの更なる活用を図る必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① イベントの内容を変更したり、ポスターの貼り方や掲示の仕方を工夫してPRを実施しました。おはなし会、セタまつりや映画会への参加が増加しました。									
	② 本の循環に力をいれるため、除籍に力を入れました。(H28:522冊→H29:779冊)									
	③ 談話コーナーでの展示や各種イベントのPRに力を入れました。									
	【次年度に向けての課題】									
	① 購入した書棚が手狭になってきているので、より計画的な本の循環が必要です。									
	② 図書館利用者を増やしていくために、イベントや図書館PRの工夫が必要です。									
所管課の評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0
	評価点	7	7	3	3	3	3	有効性 効率性 先駆性・独創性	目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。	5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0
	合計点	26	総合評価	B	町民の生涯学習・情報収集等にとって必要な施設であり、事業継続すべきと判断します。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	817	事業名	カウベルホール運営				会計区分	一般会計																								
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	□新規 ■継続																								
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	7	カウベルホール運営費																							
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																								
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																									
平成29年度	15,234	14,908	0	0	2,012	0	12,896	カウベルホール使用料 2,012千円																								
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0																									
経費の内訳	賃金 6,786千円、需用費 4,471千円、役務費 230千円、委託料 3,090千円、 使用料及び賃借料 48千円、備品購入費 13千円、負担金、補助及び交付金 270千円																															
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																									
施設改修推進	%	目標	10	15	改修計画(改)策定																											
		実績	10	10	改修検討の実施																											
		達成率	100%	67%	10%																											
		目標																														
		実績																														
		達成率																														
事業対象	町民全般																															
事業目的	芸術文化の振興を図り、生涯学習及び地域文化活動の推進を総合的に行い、幅広い世代の人々が、よりつながり、より生き生きと、地域での生活を楽しむ環境づくりを推進します。																															
事業の 主な 実施状況	① 直営化による施設管理・文化芸術発信の継続 平成29年度から直営体制での運営となったことに応じ、ホールでの受付・貸館対応を適正に実施する体制を整えることに努めました。それによりホール運営品質の維持と、各種公演活動の的確な実施を一定のレベルで行うことができました。 <table><tr><td>項目</td><td colspan="3">利用件数(件)</td><td colspan="3">利用者数(人)</td><td rowspan="2">使用料(円)</td></tr><tr><td>年度</td><td>町内</td><td>町外</td><td>合計</td><td>町内</td><td>町外</td><td>合計</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>64</td><td>45</td><td>108</td><td>10,099</td><td>1,685</td><td>11,784</td><td>2,012,270</td></tr></table>									項目	利用件数(件)			利用者数(人)			使用料(円)	年度	町内	町外	合計	町内	町外	合計	平成29年度	64	45	108	10,099	1,685	11,784	2,012,270
	項目	利用件数(件)			利用者数(人)			使用料(円)																								
年度	町内	町外	合計	町内	町外	合計																										
平成29年度	64	45	108	10,099	1,685	11,784	2,012,270																									
成果と 課題	② 施設改修検討及び改修推進 平成28年度に行った現状調査結果を元に、今後の改修の方向性について検討を行いました。また、開館後30年を越える現状に基づき、舞台吊物の消耗部品交換など早急に改修が必要な部分について改修検討を行いました。それにより舞台吊物部品の交換が平成30年度当初予算化されました。																															
	【前年度課題の概要】 ① 施設長寿命化対応による安全・安心な芸術文化拠点の実現を図る必要があるのと同時に、改修経費などの課題もあるため、施設のあり方を含めた検討が必要です。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 平成28年度に行った現状調査結果を元に、改修の方向性について検討を行いました。 ② 方向性検討と平行して、至急に改修が必要な部分について改修を検討し、平成30年度当初予算要求を行いました。 【次年度に向けての課題】 ① 施設のあり方についての検討を進めて行くことが必要です。																															
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																						
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																						
	評価点	7	3	5	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																						
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																						
合計点								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																						
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																						
	22	総合 評価	B	文化芸術振興は生活に潤いを、人々につながるを与える重要なものであり、継続が必要です。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																							

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1397	事業名	文化芸術振興事業				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	学芸文化係		事業区分	■新規 □継続	
予算区分	款	9	教育費	項	4	社会教育費	目	7	カウベルホール運営費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	692	613	0	92	186	0	335	地域住民のためのコンサートチケット代186千円	
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 60千円、需用費 75千円、役務費 21千円、委託料 191千円、使用料及び賃借料 27千円、負担金、補助及び交付金 239千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
事業参加者満足度	%	目標			70%以上	75%以上	80%以上		
		実績			85.70%				
		達成率			122%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業対象	町民全般								
事業目的	芸術文化の振興を図り、幅広い世代の人々が、よりつながり、より生き生きと、お互いをより認め合い、地域での生活を楽しむ環境づくりを推進します。								
事業の 主な 実施状況	① 地域住民のためのコンサート開催 三井住友海上財団と連携し、チェンバロの世界的奏者を招いてコンサートを開催しました。 期 日 5月7日(日) 公演名 中野振一郎～宮廷の華 チェンバロ～ 参加者 137名								
	② スマイル倶楽部・合唱団・ワークショップ 地域住民を対象にした文化・音楽教室・ワークショップを開催し、文化芸術活動者の育成を図りました。 カウベルスマイル倶楽部 通年 6教室 11名 響け！カウベル合唱団 通年 5名 子ども向けワークショップ 10月29日 49名 地域連携ワークショップ 3月1日 60名								
	③ 補助金交付 地域文化活動団体が行う発表・鑑賞活動に対して補助金を交付し、文化活動振興を図りました。 アートスタート補助金 ドレミのファミリー音楽会(NPO法人花本美雄文化振興会:92千円) 文化芸術振興補助金 結成25周年ミニコンサート(ふるさとを歌う会:48千円) 第2回スプリングコンサート(合唱団わかば:99千円)								
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 指定管理期間満了により、直営体制でのカウベルホールの活用活性化を図ることが必要です。 ② 町全体の文化芸術活動活性化のため、新たな活動主体の開拓が必要です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 直営化第1の取り組みとして、三井住友海上財団と連携して地域住民のためのコンサートを開催、多数の参加を得ることができました。 ② 文化芸術振興補助金を新設し、カウベルホールでの公演開催及び町内文化芸術団体の発表機会拡充を図ることができました。								
	【次年度に向けての課題】 ① カウベルホールのあり方検討にあわせて、町の文化芸術振興のあり方についての検討を行うことが必要です。								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10.7,3.0
	評価点	7	3	5	5	5	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10.7,3.0
								公平性 受益者の偏りはないか。	5.3,1.0
								有効性 目標数値は達成できたか。	5.3,1.0
合計点	26	総合 評価	B	文化芸術振興は生活に潤いを、人々につながりを与える重要なものであり、継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1320	事業名	ことうら健康寿命延伸活動(社会教育課)					会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	1	保健体育総務費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳(千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	35,487	35,389	15,237	0	12,000	6,700	1,452	地域振興基金		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 619千円、旅費 240千円、需用費 31千円、委託料 2,521千円、 工事請負費 18,986千円、備品購入費 12,992千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
健康寿命 (便宜上女性)	歳	目標	81.3	81.6	82.4	82.7	83			
		実績	81.3	82	82.29					
		達成率	100%	100%	100%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民全般									
事業目的	地方創生加速化交付金で整備した運動支援中核拠点(東伯総合運動公園)の機能強化を図り、幅広い世代が体を動かす遊びを楽しむことができる環境を整備、高齢者と子どもの異年齢交流による相互刺激を活用しつつ、子どもが創造的な外遊びを楽しみ、自らより積極的に運動遊びを行う習慣獲得と、高齢者の運動習慣定着の促進を図るとともに、介護予防と健康寿命延伸に寄与します。									
事業の 主な 実施状況	① アクティブ活動支援検討委員会開催 平成28年度に行った実態調査の結果を基に、設置する子ども向け遊具・高齢者向け遊具の内容・数量、設置遊具を含めた東伯総合公園での子どもと高齢者の交流促進ソフト事業について検討を行いました。(年間5回開催)									
	② 遊具の設置 プロポーザルにより業者を選定、遊具(子ども向け・高齢者向け)を設置し、設置場所を「どんぐりひろば」と命名しました。									
	③ ことうら☆子ども・高齢者いきいきフォーラム開催 外遊びをテーマにしたフォーラムを開催、遊具設置をPRするとともに、外遊び振興への機運を盛り上げました。 期日 3月17日(土) 参加者188人 内容 講演・パネルディスカッション・体験コーナー									
	④ 外遊びプログラム開発委託 総合運動公園の環境を活用して行える外遊びプログラムを作成委託しました。									
成果と 課題	【前年度課題の概要】									
	① アンケート結果及び住民意見を反映した適正な事業推進が必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 高齢者クラブ、子ども会活動関係者からなるアクティブ活動支援検討委員会を設置し、取組内容について町民意見を受けながら検討を進めました。遊具設置業者選定のプロポーザルの選定委員にもアクティブ活動支援検討委員に参画していただきました。									
所管課の 評価	【次年度に向けての課題】									
	① 検討委員会で出ていた各種意見を反映した適正な事業展開を図る必要があります。									
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0	
	評価点	10	7	3	5	5	3	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0	
合計点	33	総合 評価	A	異世代交流による知的刺激での健康寿命延伸環境 整備のひとつでもあり、継続が必要です。				公平性 受益者の偏りはないか。	5,3,1,0	
								有効性 目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
								効率性 コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
								先駆性・独創性 他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止										



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	343	事業名	スポーツ少年団育成強化				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	2	体育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	977	955	0	0	0	0	955		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	需用費 89千円、役務費 185千円、負担金、補助及び交付金 681千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
認定員養成講習会 新規受講者年2人 参加	人	目標		2	2	2	2		
		実績		5	1				
		達成率		250%	50%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業対象	スポーツ少年団員・指導者・保護者								
事業目的	スポーツ少年団活動を通して、子ども達の体力の向上と健全育成を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① スポーツ少年団育成16団体の活動支援を年間を通じて行い、競技力アップとボランティア精神の育成などの健全育成を進めました。 ○登録団体 16団体 ○年間事業 ・結団式 (4/1 参加250人) 結団式・海岸清掃 ・郡競技別交流大会 野球、ミニバスケット、バレーボール、バドミントン参加 ・親子講演会 (3/23 参加191人) 演題「スポーツと感動」 講師 谷川哲也さん(アスレティックトレーナー) ・認定員養成講習会 1名参加								
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 子どもの多忙化により学校生活への影響があります。通常練習を週3日以内にするなどの対策が必要です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① スポーツ少年団指導者会で、通常練習を週3日以内にするなど再確認をしました。								
所管課の 評価	【次年度に向けての課題】								
	① 小学校と連携して子ども達の様子を聞くなど状況把握に努め、家庭・学校と少年団活動とのバランスを引き続き図ることが必要です。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。
	評価点	10	10	3	3	3	1	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
合計点	30	総合 評価	B	スポーツや地域住民などと関わりを持った青少年育成は必要であるため継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	335	事業名	郡・県・全国体育大会選手派遣				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	2	体育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	4,366	4,178	0	0	0	0	4,178		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	賃金 8千円、報償費 120千円、需用費 614千円、負担金、補助及び交付金 3,436千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
郡体全種目出場	種目	目標		74	74	74	74		
		実績		73	70				
		達成率		99%	95%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業対象	郡・県・全国大会出場者								
事業目的	各種大会に町代表として選手を派遣し、競技力の向上や、町民の競技スポーツ離れの打開及び健康づくりの習慣化を図ります。								
事業の 主な 実施状況	① 郡民体育大会（北栄町主会場）に選手を派遣しました。 開催日 7月8・9日、15・16日 北栄町主会場 参加者数 1,266人 結果 男女総合優勝2連覇（男子8年連続、女子2年連続） ② 県民スポーツレクリエーション祭に選手を派遣しました。 開催日 夏季大会 8月26・27日 秋季大会 10月21・22日 冬季大会 2月11日 参加者数 競技スポーツの部 197人 ③ 下記各種大会の参加支援を行いました。 ・各種全国大会 12団体 38人 ・駅伝大会 中部駅伝3チーム、米子一鳥取間駅伝3チーム ・世界大会参加 3名								
									
成果と 課題	【前年度課題の概要】								
	① 競技スポーツ離れによる選手の確保・育成が必要です。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 世界大会に4名の選手が出場、その動向をPRすることで競技スポーツに注目を向けることができました。								
所管課の 評価	【次年度に向けての課題】								
	① 郡体について水泳・陸上などの個人種目への参加者が少ない状況です。体育協会各部を中心に選手発掘推進が必要です。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	10	10	3	5	3	1	妥当性 行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
合計点									
合計点		32	総合 評価	B	郡民体育大会参加を目標にスポーツを再開される方もあるため継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1218	事業名	健康寿命延伸事業(地方創生)				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	2	体育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳(千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	5,497	5,260	0	0	5,200	0	60	地域振興基金5,200千円		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 298千円、需用費 332千円、委託料 1,896千円、備品購入費 2,727千円、その他 7千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
健康寿命(女性)	歳	目標	81.3	81.6	82.4	82.7	83			
		実績	81.3	82	82.29					
		達成率	100%	100%	100%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民全般									
事業目的	地方創生加速化交付金で整備した総合体育館トレーニングルームの継続活用推進を図ります。また、ウォーキング及びノルディックウォーキング奨励により、町民の運動習慣定着を図るとともに、介護予防と健康寿命延伸に寄与します。									
事業の 主な 実施状況	① 管理・指導員配置、トレーニング教室開催 ・Ja-んぐるによるトレーニングルーム管理・指導を行い、参加者増に繋がりました。 ・町民トレーナー養成講座を開催、3人のトレーナーによる指導を開始しました。									
	② ウォーキング及びノルディック・ウォーキング奨励 9地区公民館をコースとしたウォーキングマップを3,000部作成しグルメウォーキング等で広く配布し、町内ウォーキングコースのPRとウォーキングの奨励を進めました。									
	③ イヤーラウンドの認定コースを歩くウォーキング事業を開催しました。(6/10)									
	④ 元気に歩こう琴浦を！開催 ノルディック・ウォーキング指導者会・地区公民館と連携し、町内8地区でウォーキングの機会を設定しました。									
										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① トレーニングルーム指導体制の確立が必要です。 ② 各地区公民館との連携で自主的に活動できるウォーキング人口を増やすことが必要です。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 専任トレーナー継続配置、町民トレーナー育成などを通じて、トレーニングルーム年間利用者数が10,548人と、前年度より4,975人増加しました。 ② 元気に歩こう、琴浦を！を各地区で開催し、ウォーキング人口増に資することができました。									
	【次年度に向けての課題】 ① 町民トレーナーによる参加者への指導の充実を図ることが必要です。 ② 引き続き、ウォーキング人口増への取り組みを進めることが必要です。									
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0
	評価点	10	7	3	5	5	3	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0
	合計点	33	総合 評価	A	気軽に健康づくりが出来る場として設備・指導体制の充実が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	5,3,1,0



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	334	事業名	社会体育指導及び推進				会計区分	一般会計	
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続	
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	2	体育振興費
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源		
平成29年度	1,762	1,619	0	0	0	0	1,619		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0		
経費の内訳	報償費 1,199千円、旅費 116千円、需用費 213千円、役務費 41千円、負担金、補助及び交付金 50千円								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)		
スポーツ推進委員 主催教室参加者数 維持	人	目標	60	60	60	60	60		
		実績	54	48	32				
		達成率	90%	80%	53%				
		目標							
		実績							
		達成率							
事業対象	町民全般								
事業目的	町民が健康で明るく生活するため、スポーツ推進委員・体育施設スポーツ教室・ガイナレ鳥取との連携した事業を中心に生涯スポーツを推進します。								
	① スポーツ推進委員と連携して下記各事業を展開しました。 ・体力づくり教室(9/28～10/26 5回 63人参加) ソフトバレー・ファミリーバドミントン ・体力測定会＆ニュースポーツ交流会(11/3 23人参加) カローリング・ペタンク ・町民体力づくりスポレク祭(2/18 8時～、70人参加) スポンジテニス ・スポーツ推進員町内指導派遣(16箇所)								
	② スポーツ推進委員の研修参加を推進しました。 ・中国スポ推研修会(6/24, 25山口県岩国市 11人参加) ・全国スポ推研究協議会(11/9, 11茨城県つくば市 6人参加) ・県スポ推研究大会(9人参加)、郡研究大会(14人参加)、郡市実技研修会(18人参加)								
	③ 体育施設スポーツ教室を開催しました。 ・バランスボール教室(年間3期 25回 累計1,079人) 指導者：小泉和子さん								
	④ ガイナレ鳥取との連携事業に取り組めました。 ・サッカー教室(10/21 参加40人) ・ホームタウンデイ(10/22 パス応援参加15人)								
成果と課題	【前年度課題の概要】								
	① 職場、地域などへの参加呼びかけを行い、健康づくり推進をより進める必要があります。								
	【成果及び前年度課題に対する対応】								
	① 体育施設スポーツ教室を民間の指導者を依頼して開催し、1回平均43人の参加がありました。								
所管課の評価	【次年度に向けての課題】								
	① 町主体で開催してきたスポーツ教室のサークル化推進をよりスムーズに行う必要があります。								
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性 妥当性 公平性 有効性 効率性 先駆性・独創性	住民ニーズ、事業の必要性は。 行政必須か、委託の可能性は。 受益者の偏りはないか。 目標数値は達成できたか。 コスト・人員効率はどうか。 他の見本となりえるか。
	評価点	10	3	3	3	3	3	10,7,3,0 10,7,3,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0 5,3,1,0	
合計点	25	総合評価	B	スポーツ推進委員派遣依頼も増え必要性が高まっているため、継続した研修によるスキルアップが必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止	



平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	336	事業名	町体育協会育成及び各部奨励				会計区分	一般会計		
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	□新規 ■継続		
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	2	体育振興費	
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)		
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源			
平成29年度	2,405	1,956	0	0	0	0	1,956			
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0			
経費の内訳	報償費 260千円、需用費 11千円、役務費 78千円、負担金、補助及び交付金 1,607千円									
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)			
スポーツ教室参加者数維持	人	目標		130	100	100	100			
		実績		120	110					
		達成率		92%	110%					
		目標								
		実績								
		達成率								
事業対象	町民全般									
事業目的	体育協会事業でスポーツに親む機会を設定し、町民の健康づくりにつなげます。また、全国大会などで優秀な成績を収められた方に対して表彰式を行い功績を讃え、今後の活力につなげて行きます。									
事業の主な実施状況	① 体育協会事業を年間を通じて展開し、健康づくり及び仲間づくりを奨励しました。 大会・教室 33事業 参加2,772人 表彰式(2/25 対象188人)									
	② 琴浦町スポーツ教室を開催(実施主体:スポーツ教室実行委員会)、体づくりについての学習機会を設定しました。 テーマ プロトレーナーから学ぶ体のコンディショニング 講師 谷川哲也さん他3名 参加 110人									
										
成果と課題	【前年度課題の概要】									
	① 若年層参加者確保のため、体育協会主催のスポーツ大会の内容を検討する必要があります。									
	【成果及び前年度課題に対する対応】									
	① 参加者確保に努めましたが、雨天での町駅伝が中止など中止の競技があったため、前年より参加者が減少しています。									
成果と課題	【次年度に向けての課題】									
	① 競技内容の検討及び体育協会の自主運営化を図ることが必要です。									
	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0
	評価点	7	3	3	3	3	1	妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0
合計点	20	総合評価	B	スポーツ離れを打開するためにも継続が必要です。			有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0	
							効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0	
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0	
							A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止			

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	349	事業名	社会体育利用施設管理				会計区分	一般会計																										
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続																										
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	3	体育施設費																									
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																										
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																											
平成29年度	2,740	2,624	0	0	968	0	1,656	小学校体育館使用料 中学校体育館使用料																										
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0																											
経費の内訳	賃金 138千円、需用費 1,516千円、役務費 255千円、委託料 16千円、備品購入費 699千円																																	
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																											
設定なし		目標																																
		実績																																
		達成率																																
事業対象	町民全般																																	
事業目的	地域住民の健康で文化的な生活環境の向上とスポーツの振興を図るため、体育施設の維持管理を行います。																																	
事業の 主な 実施状況	① 下記施設の維持管理を行いました。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th>金額(円)</th><th>備考(経常経費の記載は省略)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東伯武道館</td><td align="right">1,143,721</td><td>温水シャワー設置</td></tr> <tr> <td>赤碕武道館</td><td align="right">66,961</td><td></td></tr> <tr> <td>旧古布庄小学校体育館</td><td align="right">204,694</td><td></td></tr> <tr> <td>旧安田小学校体育館</td><td align="right">185,732</td><td></td></tr> <tr> <td>旧以西小学校体育館</td><td align="right">129,642</td><td></td></tr> <tr> <td>聖郷グラウンド</td><td align="right">121,677</td><td></td></tr> <tr> <td>各小中学校体育館(スポ少)</td><td align="right">771,554</td><td>スポ少ボレーボール支柱</td></tr> </tbody> </table>										施設名	金額(円)	備考(経常経費の記載は省略)	東伯武道館	1,143,721	温水シャワー設置	赤碕武道館	66,961		旧古布庄小学校体育館	204,694		旧安田小学校体育館	185,732		旧以西小学校体育館	129,642		聖郷グラウンド	121,677		各小中学校体育館(スポ少)	771,554	スポ少ボレーボール支柱
	施設名	金額(円)	備考(経常経費の記載は省略)																															
	東伯武道館	1,143,721	温水シャワー設置																															
	赤碕武道館	66,961																																
	旧古布庄小学校体育館	204,694																																
	旧安田小学校体育館	185,732																																
	旧以西小学校体育館	129,642																																
	聖郷グラウンド	121,677																																
	各小中学校体育館(スポ少)	771,554	スポ少ボレーボール支柱																															
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① フットサル競技は、ボールが壁に当たった時に破損が大きいので、学校施設などが利用できず使用できる施設に限られます。																																	
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① フットサル競技が使用できる施設を限定しました。 【使用可能施設】 総合体育館、旧安田小学校体育館 ② 東伯武道館に温水シャワーを新設、使用環境を整えました。																																	
	【次年度に向けての課題】 ① 閉校体育館の有効利用のため、施設の整備維持が必要です。																																	
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																								
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																								
	評価点	7	3	3	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																								
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																								
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																								
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																									
合計点	20	総合評価	B	地域住民の健康づくりのために維持管理の継続が必要です。				A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																										

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	418	事業名	赤碕総合運動公園管理				会計区分	一般会計																										
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続																										
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	3	体育施設費																									
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																										
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																											
平成29年度	14,538	14,223	0	0	842	0	13,381	赤碕総合運動公園使用料																										
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0																											
経費の内訳	賃金 2,133千円、需用費 2,320千円、役務費 77千円、委託料 1,304千円、使用料及び賃借料 334千円、工事請負費 7,677千円、原材料費 378千円																																	
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																											
設定なし		目標																																
		実績																																
		達成率																																
事業対象	町内外利用者																																	
事業目的	地域住民の健康で文化的な生活環境の向上とスポーツの振興を図るため、運動公園の維持管理を行います。																																	
事業の 主な 実施状況	① 下記のとおり施設の維持管理を行いました。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>費目</th><th>金額(円)</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賃金</td><td align="right">2,132,790</td><td>公園管理作業員、補助員</td></tr> <tr> <td>需用費</td><td align="right">2,320,203</td><td>テニスコート人工芝張替、溜池ポンプ修繕</td></tr> <tr> <td>役務費</td><td align="right">77,095</td><td>火災保険</td></tr> <tr> <td>委託料</td><td align="right">1,304,208</td><td>夜間管理委託</td></tr> <tr> <td>使用料及び賃借料</td><td align="right">334,009</td><td>公用車リース</td></tr> <tr> <td>工事請負費</td><td align="right">7,676,640</td><td>キュービクル取替、倉庫屋根修繕</td></tr> <tr> <td>原材料費</td><td align="right">378,000</td><td>野球場グラウンド用混合土</td></tr> </tbody> </table>										費目	金額(円)	備考	賃金	2,132,790	公園管理作業員、補助員	需用費	2,320,203	テニスコート人工芝張替、溜池ポンプ修繕	役務費	77,095	火災保険	委託料	1,304,208	夜間管理委託	使用料及び賃借料	334,009	公用車リース	工事請負費	7,676,640	キュービクル取替、倉庫屋根修繕	原材料費	378,000	野球場グラウンド用混合土
	費目	金額(円)	備考																															
	賃金	2,132,790	公園管理作業員、補助員																															
	需用費	2,320,203	テニスコート人工芝張替、溜池ポンプ修繕																															
	役務費	77,095	火災保険																															
	委託料	1,304,208	夜間管理委託																															
	使用料及び賃借料	334,009	公用車リース																															
	工事請負費	7,676,640	キュービクル取替、倉庫屋根修繕																															
	原材料費	378,000	野球場グラウンド用混合土																															
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 施設老朽化のため修繕が必要です。																																	
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① テニスコート人工芝の部分張替え修繕を行いました。 ② キュービクル取替及び倉庫の屋根修繕を行いました。																																	
	【次年度に向けての課題】 ① 施設老朽化のため定期的に点検箇所を調査し、急な修繕が無いよう取り組みが必要です。																																	
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																								
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																								
	評価点	7	3	3	3	3	1	公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																								
								有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																								
	合計点	20	総合評価	B	施設を安全に利用するために維持管理が必要です。				効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																							
										先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																						
										A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																								

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1371	事業名	東伯総合体育館耐震対策事業				会計区分	一般財源																	
担当課	社会教育課		担当係	社会体育係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続																		
予算区分	款	9	教育費	項	5	保健体育費	目	3	体育施設費																
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳 (千円)					備考 (その他収入の内訳)																	
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																		
平成29年度	200,834	196,328	0	0	0	178,000	18,328																		
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0																		
経費の内訳	委託料 3,656千円 工事請負費 192,672千円																								
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																		
設定なし		目標																							
		実績																							
		達成率																							
事業対象	町内外一般利用者																								
事業目的	体育館の吊り天井、照明設備並びに窓・ガラス等について耐震化を図り、安心・安全な環境の整備と施設の防災機能強化を推進します。また、これらに併せて施設のリニューアルを行います。																								
事業の 主な 実施状況	<table border="1"> <tr> <th>業務名</th><th>金額(円)</th><th>期間</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>工事監理委託業務</td><td>3,456,000</td><td>平成29年6月1日～平成30年3月9日</td><td></td></tr> <tr> <td>屋根調査業務</td><td>199,800</td><td>平成29年4月13日～平成29年5月12日</td><td></td></tr> <tr> <td>工事</td><td>192,672,000</td><td>平成29年6月22日～平成30年3月9日</td><td></td></tr> </table>									業務名	金額(円)	期間	備考	工事監理委託業務	3,456,000	平成29年6月1日～平成30年3月9日		屋根調査業務	199,800	平成29年4月13日～平成29年5月12日		工事	192,672,000	平成29年6月22日～平成30年3月9日	
	業務名	金額(円)	期間	備考																					
工事監理委託業務	3,456,000	平成29年6月1日～平成30年3月9日																							
屋根調査業務	199,800	平成29年4月13日～平成29年5月12日																							
工事	192,672,000	平成29年6月22日～平成30年3月9日																							
	(改修前)  ➡ (改修後) 																								
成果と 課題	【前年度課題の概要】																								
	【成果及び前年度課題に対する対応】 ① トイレ改修・温水シャワー増設等を盛り込み、避難所としての機能強化を図りました。																								
	【次年度に向けての課題】																								
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0															
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0															
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0															
	評価点	10	10	5	5	5	5	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0															
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0															
							先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																
合計点	40	総合評価	E	工事を完了したため、今年度で事業は終了とします。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																

平成 29 年度 事業成果説明書 兼 評価書

事業番号	1334	事業名	鳥取中部地震災害対策事業（地震災害復旧費・社会教育課）				会計区分	一般会計																			
担当課	社会教育課			担当係	社会体育係		事業区分	☐ 新規 ☒ 継続																			
予算区分	款	10	災害復旧費	項	2	地震災害復旧費	目	2	鳥取県中部地震対策費																		
年度	最終予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業費財源内訳（千円）					備考 (その他収入の内訳)																			
			国庫支出金	県支出金	その他収入	起債	一般財源																				
平成29年度	2,758	2,641	0	0	0	100	2,541																				
平成29年度(明許)	0	0	0	0	0	0	0																				
経費の内訳	修繕料 2,560千円 委託料 81千円																										
活動項目	単位	年度	27(実績)	28(実績)	29(実績)	30(計画)	31(計画)																				
設定なし		目標																									
		実績																									
		達成率																									
事業対象	町民全般																										
事業目的	鳥取中部地震被害箇所の修繕を行います。																										
事業の 主な 実施状況	① 鳥取中部地震被害に応じて下記各修繕等を行いました。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>業務名</th><th>金額(円)</th></tr> <tr> <td>生涯学習センター多目的ホール照明等修繕</td><td>243,000</td></tr> <tr> <td>東伯勤労者体育センター柱脚修繕</td><td>257,040</td></tr> <tr> <td>東伯勤労者体育センター柱脚補修監理委託</td><td>81,000</td></tr> <tr> <td>赤碕武道館外壁シーリング修繕工事</td><td>1,274,400</td></tr> <tr> <td>八橋地区公民館外壁等補修工事</td><td>405,000</td></tr> <tr> <td>古布庄地区公民館外壁等補修工事</td><td>250,000</td></tr> <tr> <td>赤碕地区公民館瓦ズレ補修</td><td>98,280</td></tr> <tr> <td>赤碕地区公民館棟須山修繕</td><td>32,400</td></tr> </table>									業務名	金額(円)	生涯学習センター多目的ホール照明等修繕	243,000	東伯勤労者体育センター柱脚修繕	257,040	東伯勤労者体育センター柱脚補修監理委託	81,000	赤碕武道館外壁シーリング修繕工事	1,274,400	八橋地区公民館外壁等補修工事	405,000	古布庄地区公民館外壁等補修工事	250,000	赤碕地区公民館瓦ズレ補修	98,280	赤碕地区公民館棟須山修繕	32,400
業務名	金額(円)																										
生涯学習センター多目的ホール照明等修繕	243,000																										
東伯勤労者体育センター柱脚修繕	257,040																										
東伯勤労者体育センター柱脚補修監理委託	81,000																										
赤碕武道館外壁シーリング修繕工事	1,274,400																										
八橋地区公民館外壁等補修工事	405,000																										
古布庄地区公民館外壁等補修工事	250,000																										
赤碕地区公民館瓦ズレ補修	98,280																										
赤碕地区公民館棟須山修繕	32,400																										
成果と 課題	【前年度課題の概要】 ① 施工業者の不足により未執行となった修繕について繰越しをしました。 【成果及び前年度課題に対する対応】 ① 未執行の修繕を全て完了しました。 【次年度に向けての課題】																										
所管課の 評価	評価項目	必要性	妥当性	公平性	有効性	効率性	先駆性 独創性	必要性	住民ニーズ、事業の必要性は。	10,7,3,0																	
								妥当性	行政必須か、委託の可能性は。	10,7,3,0																	
								公平性	受益者の偏りはないか。	5,3,1,0																	
	評価点	7	10	3	3	3	1	有効性	目標数値は達成できたか。	5,3,1,0																	
								効率性	コスト・人員効率はどうか。	5,3,1,0																	
								先駆性・独創性	他の見本となりえるか。	5,3,1,0																	
合計点	27	総合評価	E	今年度で事業を終了します。					A:事業拡充 B:現状維持 C:内容の見直し又は委託の検討 D:縮小・終期設定 E:休止・廃止																		